

厳しい現状を乗り越え、 サステイナブルに成長するためにも

今こそ「ひとへの投資」を!

第3四半期は厳しい経営状況を反映していますが…

全てのセグメントで減収減益という、厳しい収入実績となっておりますが、そのしわ寄せは社員に直接影響を与える人件費・修繕費の削減となっております。一方、羽田空港アクセス線や高輪ゲートウェイ駅周辺の開発等は、前年度比プラスの設備投資として進めるとしてしています。約3,000億円ものお金をかけるならば、安全投資・ひとへの投資もできるはずです。

(単位：億円)	2019.12 実績	2020.12 実績	2020.12 / 2019.12		
			増減	%	実績増減の主な要因
営業費用	12,466	11,740	△726	94.2	
人件費	3,323	2,854	△469	85.9	・賞与の減 …… △315 ↓ ・社員数の減 …… △51 ↓
物件費	5,456	5,151	△305	94.4	
動力費	451	393	△57	87.3	・燃料単価の減 …… △48 ↓
修繕費	1,940	1,908	△31	98.4	・車両修繕費 …… △36 ↓
その他	3,064	2,848	△215	93.0	・手数料の減 ↓
減価償却費	2,259	2,363	+103	104.6	・設備投資の増 ↑

(単体営業費用・第3四半期決算より)

JR東日本は、収益が落ち込んだ中でも株主還元方針を掲げ、利益剰余金を財源に株主還元を維持し、約500億円の配当を維持しています。

アフターコロナに向けた未来への投資は否定しないが

厳しい経営環境の時こそ、 足元を見つめ直す経営手腕を!